

お祭りの日

小杉とも

食べ物でもなく
火薬でもない
露店がなくても
花火がなくても
ただよう匂い
なつかしい匂い

人垣をくぐり抜け
太鼓の音色の波に乗り
ふと開けた休耕田
自ずと着いたその場所は
賽銭箱より目立たない
小さな古びた道祖神
何でも知ってた幼き頃の
小さく賢い自分自身